

～ちょっと気になる感染症～



細菌性赤痢について

- ◆細菌性赤痢とは 赤痢菌による急性感染性大腸炎です。
患者の便や、便で汚染された水や食品を感染源とする経口感染症です。
感染力が非常に強く、少量の菌が体内に入っただけでも感染することから、ヒトからヒトへの直接感染の危険性もあります。
海外旅行での感染のほか、国内での感染もみられ、ときに幼稚園、保育園や福祉施設などで集団発生となることもあります。
- ◆症状について 発熱、腹痛、下痢などがあり、下痢の程度は軟便から水様便まで様々で、時に血便になることもあります。重症になると、少量の膿粘血便（のうねんけつべん）を繰り返します。
多くは、感染から1～5日（多くは3日以内）後に症状が現れます。
軽症の下痢や、無症状のままの場合もあります。
症状は、一般に成人よりも小児の方が重いとされています。
- ◆予防について ○海外の汚染地域での飲食に十分注意しましょう。
上下水道が十分に整備されていない地域では、水系が汚染されている可能性があります。汚染地域と考えられる国では、生もの、生水、氷、生野菜、カットフルーツなどは飲食しないようにしましょう。
○調理の前、食事の前、排泄後などは丁寧に手を洗いましょう。



手洗いの方法

- ① 指輪や時計をはずす。
- ② 石けんを良く泡立て、指の間や手首までしっかりとみ洗いする。
- ③ 流水でよくすすぐ。
- ④ 乾いた清潔なタオルで十分に拭き取る。

- ◆感染者の就業制限について 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、細菌性赤痢の病原体を保有しなくなるまでの期間は**飲食物の製造、販売、調製または取り扱いの際に飲食物に直接接触する業務**に就くことができません。
- ◆学校保健安全法における取り扱い 細菌性赤痢は第三種の感染症に指定されており、**治癒（病原体を保有しなくなるまで）は、出席停止することが望ましい**とされています。
また、水質管理や手洗いの励行などの日頃の指導が重要とされています。